

来月高岡で万葉大茶会

10月2日に高岡市の国重要文化財・勝興寺で開かれる「令和の万葉大茶会」に、アルミ缶を活用して発生させた水素を使ってお湯を沸かす演出が取り入れられる。万葉歌人、大伴家持にゆかりのある全国の自治体の首長らが出席する予定で、高岡発の次世代エネルギー「アルミ水素」



独自開発の装置でアルミから水素を発生させ、お湯を沸かすアルミハイテックの社員＝高岡市オフィスパーク

アルミ水素で茶の湯

をアピールする。

廃アルミから水素を生み出すベンチャー企業、アルミハイテック（高岡市）とトヨタモビリティ富山（富山市）が協力して実演する。高岡高校の生徒が集めた空き缶をアルミハイテックの装置に投入。発生した水素をトヨタ自動車の燃料電池車「ミライ」に充填して発電し、お湯を沸かす。アルミハイテックの水木伸明社長は

次世代エネルギー

「アルミ水素を身近に感じてもらうきっかけになればいい」と話す。

茶会は万葉集が「令和」の典拠になったことを記念し、家持ゆかりの高岡市や福岡県太宰府市などでつくる実行委員会が昨年初めて東京で開いた。高岡市が第2回の開催地となる。茶会への参加は関係者に限られるが、アルミ水素の実演や「梅花の宴」を再現する催しは誰でも見ることができると見られる。